

金融教育を通して生きる力をはぐくむ

堺市立鳳中学校支援学級（久保田智子・辻西美和子・岡野眞理子）

1. はじめに

本校の支援学級は、前年度より金融庁の研究校の指定を受け、在籍生徒を対象に金融教育を行っています。今回は、今年度入学した新1年生9名のうち、支援学級での学習時間が比較的多い生徒5名を対象に行った金融教育（生きる力をはぐくむ）の取組について報告、発表します（後半の取組には2年生も参加しています）。

新1年生の5名は、学力・生活力ともに差があるので、学習内容によっては生徒自身が先生役を務めることで力の差をうまく生かしながら共同学習に全員が前向きに取り組めるように配慮、工夫をしました。

2. 取組

① [お金の種類を知る]・・おもちゃのお金を使って硬貨の種類を知り、自分の持っているお金を計算できる

ランダムに袋からとったお金を種類別に分け計算し、合計額の多少を競うことで、ゲーム感覚的な取組となりました。

初めてお金に接する生徒も友だちの助けを借りることで積極的に楽しく取り組みました。

この学習の中で、実際の硬貨の原材料・製造に興味を持ち、2学期に大阪造幣局の見学に行き、調べ学習をすることが決まりました。



② [お金の価値を知る]・・インフレ・デフレについて

インフレ・デフレがどうして起きるのか、円安・円高がどういうふうに生活に影響するのか、実例をあげ（インフレでパン1個を買うために山盛りの紙幣を運んでいる写真等）、実生活に取り入れることが難しくても、自分たちの身近な問題であることを意識できるように取り組みました。

③ [消費税を知る]・・掛け算に取り組む

今年度から消費税が上がり、品物の値段が外税になった店が多くなったので、見かけの値段に惑わされないように価格を知る取組として、黒板に8の段（消費税率）の九九を掲示し、消費税を意識させる取組を行いました。九九の苦手な生徒も、勉強しているという気持ちよりわかる楽しさが優先したようで、いつの間にか九九を習得する力がついていきました。

④ [買い物学習]・・自分の役目を理解し、お金を使えるようになる

日本語だけでなく英語を取り入れ、中学生になったという自覚を持たせ、学力の高い生徒も楽しく遊び感覚で参加できるように工夫しました。

初めは教師が売り手になり、生徒が順番に教室にある品物を買う取組を行い、特売品を作るなど工夫をしました。自分の買いたいものがなくなるとがっかりするなど、生徒の個性がとてもよくみられる取組となりました。

その後、生徒自身が売り手・買い手の役割を交互に体験することで、より買い物学習が身近になり、自分のお金の使い方の大切さを実感できました。

この取組の中で、生徒自ら売る工夫（品物の数を減らし、買い手の意欲を高める等）をする姿が見られ、生徒の思考力の豊かさに教師のほうが悪えられることも多くありました。

また、最後にだれが一番多くの残金と品数を持っているか比べ合いをする中で、お金の使い方、お金を残す工夫を習得することができました。



⑤ [買い物]・・本物のお金を使える

生徒たちが実際に作りたいスイーツを見つけ必要材料を書き出し、抽選で自分が買う材料と必要量を決定し、近くのスーパーマーケットに決められた金額を持って買い物に行きました。

品物の鮮度に気をつけることなど、不安もありましたが、現金を使えるうれしさを感じることができたドキドキ・わくわくの買い物だったようです。

*決められた金額を多くの硬貨の中から必要な分だけ取る

$$100 \text{ 円} \times 4 + 50 \text{ 円} \times 1 + 10 \text{ 円} \times 4 + 5 \text{ 円} \times 1 + 1 \text{ 円} \times 5 = 500 \text{ 円}$$

今回はきちんとした金額が払える学習をし、帰校してからサイフの残高が合っているか計算機を使い確かめることを行いました。

この学習では教師がサポートすることを極力避け、「店の人に聞ける」、「上級生と下級生が助け合う、助けを求めることができる」ということを目的に取り組みました。



先に述べた取組と並行して最終目的である自主製品の販売に必要なパン・クッキー・ケ

ーキの試作を繰り返し、手指の巧緻性を養うとともに器具の使い方等、生活に必要な力をつけていきました。

クッキーの種類・ティークッキー、型抜きクッキー、チョコチップクッキー、ナッツクッキー、レーズンクッキー等

パンの種類・・・丸パン、ウインナーパン、クルミパン等

ケーキの種類・・・ジャム入り（いちご・ゆず等）カップケーキ、チョコブラウニー、ドライフルーツ入りケーキ、アップルケーキ等

特にパン作りは、粘土細工感覚で手指の訓練にはとても効果があると感じました。

- ⑥ [上手な買い物の仕方]・・・消費税の内税と外税での価格の違いの見方と考え方の学習
(例1) 内税で1個105円のリンゴと外税で1個100円のリンゴはどちらが安い？
外税は実際には108円になるので、見かけの額にごまかされない。

単価あたりの値段を知る。

(例2) 小麦粉の100グラム当たりの単価の計算（本当はどちらがお買い得か？）

1kg 180円（単価18円）

750g 150円（単価20円）入っている量で単価は変わる。

例のように、比較を行うことで表示だけではわからない価格の中身を考える学習をしました。また、必要もないのに大量に買うことで、期限切れ等、最終的に品物を廃棄することになり、かえって高い買い物になることも実例をあげながら学習していきました。

- ⑦ [販売価格を考える]・・・価格に含まれるものを知る

販売価格に含まれるものを考え、意見を出す

生徒からは原材料費（小麦粉・バターなど）についてはすぐに意見が出てきましたが、その他は教師のアドバイスを受けながら考える展開になりました。その結果、光熱費・包装費など基本的な費用は考えることができました。給料に反映する労働費については、なかなか考え出すことができませんでした。大人になったら生活費が必要なこと、実際の収入は労働費（給料）であること、「お金があることで生活の範囲が豊かになる」という話で初めて商品を販売することが生活（生きる力）とつながった生徒も多くいました。

- ⑧ [実際の販売に向けて]・・・教師を対象として販売

・販売する日は行事予定に考慮し、決定。

・販売に向け商品（今回は、カップケーキ3種類・クルミパン・ティークッキー2種類）を製作する。

・⑦で学習したことを土台にそれぞれの商品の価格設定をする。

・販売に向け、パソコンの得意な生徒が販売チラシを作り、教師に配布。

・販売に向け商品の個包装、商品のレイアウトを考える。

生徒一人ひとりが自分の得意分野を生かしながら、1つの目標に向け、一致団結した取組になりました。あとは販売本番を待つだけ。

⑨ [販売当日]・・支援教室で販売

生徒の意見を中心にみんなで相談して役割分担を決定。

売り手・会計のほかに教師が予期していなかった呼び込み役をする生徒も出てきました。

大勢の先生が購入に協力してくださり盛況でした。また、金融教育の一環として行っていることを事前に知らせてあったので、先生方は創意工夫ある購入をしてくださいました。

その中のいくつかをあげさせていただきます。

- ・お釣りを必要とする買い方
- ・多くの小銭（1円も含む）で生徒にきちんと払えているかチェックさせる買い方
- ・数多く購入し、合計を考えさせる買い方
- ・「1000円で買えるだけ」を考えさせる買い方 など

生徒たちは自分の持てる力を最大限に駆使し、いろいろな難問をクリアしていきました。

商品は完売でき、少しの利益を得ることもできました。利益は生徒の飲料として還元・次回の販売の材料費にすることを相談して決めていきました。



番外編 [造幣局見学]

朝、鳳駅に集合し、自分で運賃表から運賃を調べ各自で切符の購入をする。「サイフからお金の出し入れする」、「切符とお釣りを券売機から取る」という二重の作業は思った以上に大変で、小銭入れの形状も生活の基本動作に大きく影響していると感じました（買い物学習では学校で用意した、使いやすいサイフを全員分用意しました）。

見学では、各種の勲章が造幣局で作られていること、リボンの色で勲章の種類が変わることなど初めて聞く話が多くあり、生徒の一人は説明に出なかったリボンの色を何の勲章なのか質問し（予想外の質問に案内の方はしばらく答えが出ませんでした）、満足げでした。

そのほかに、地方自治法施行 60 周年・新幹線鉄道開業 50 周年のカラー記念硬貨を見ることができ、日本の硬貨を作る技術のすごさを実感しました。また、体験コーナーでは実際に運ばれる硬貨の袋を持ち上げ、その重さを実感し、硬貨の種類を分けるゲーム的要素のある機械（自販機の基礎）で思いきり楽しんでいました。疑問だった硬貨の原材料も確認でき、有意義な 1 日になりました。



3. おわりに

金融庁の研修で配布された「最低限身につけるべき金融リテラシー（お金の知識・判断力）」を参考に、雲をつかむような状態からスタートした金融教育でしたが、生徒一人ひとりの特性を考え取り組む中で、教師が思っている以上の力や、理解力の向上が見られました。今後もこの取組を土台に、「生きる力をはぐくむ」という大きな目標の達成に向け、新たな取組を展開していきたいと思えます。

#パソコンで販売チラシの製作中

